

公表 児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名		鈴鹿市第2療育センター			公表日		令和7年2月27日	
		チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	2		・クラスの人数に応じて、部屋の使い方を考えている。 ・適切になるように人や物の配置を工夫して行っている。 ・多いクラスは3~4人程度の小グループにさらに分けている。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		10	1		・お子様の姿に合わせて人数を対応(調整)している。 ・必要なお子様には職員が配置されている。	・お子様の発達に合わせた活動の提供や、必要に応じて刺激の遮断を行うために、職員の立つ位置や物の配置など工夫を心掛けていく。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		9	2		・掲示板(廊下)に、必要に応じて掲示したり、きずなネット配信を通して、保護者様へ様々な情報を伝えさせていただいている。 ・部屋の中は空間が分けられている。	・室内・室外(土足エリア)の区別が分かりにくいなど改善が必要である。 ・廊下に、掲示板がたくさん貼ってあるが、保護者様に伝わっていないと感じることがある。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		9	2		・夏は影を作るためにテントを使用する、冬はお湯が出るトイレの手洗いなどを活用するようにしている。 ・手洗い場が夏は暑く、冬は寒い。また、定期的にマットなどの掃除も行っている。	・セラピーマットを清潔に保つようにしていく必要がある。 ・少し落ち着けるような個別で使用できる部屋がない。 ⇒落ち着いていただけるような部屋があるが、必要に応じて使用していただけるように部屋の使用状況を職員に周知していく。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		7	4		・週案検討時に実際に組んでみることで、問題点などが見えるようになってきた。 ・静養室などお子様や保護者様の体調等に合わせて使用いただける部屋がある。	・個別で使える部屋は訓練室のみで、集団活動の際は難しい。 ・使用の際、丁寧に説明し安心して使っていただけるように配慮していく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	11			・職員が意見交換できる時間を確保している。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	1		・保護者様からいただいた声を職員に伝え、活動改善につなげさせていただいている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11			・面談や会議など、個人が発言できる機会は多くあるようにしている。	・今後も継続して行っていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	3	1	・外部評価がどこまでを指すのかわからない。	・第三者による外部評価を現在行っていない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	11			・年間で10回以上の職員研修を実施している。		

	チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10	1		・支援プログラムについて、2月末完成予定です。HPや掲示板にて掲載予定です。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	11			・クラス担当からニーズなどを確認し、個別支援計画に反映できるようにしている。 ・療育会議を通して、様々な職種の職員でお子様について考え、支援の方向を話し合うようにしている。 ・保護者様からお子様の様子を確認し、支援計画を立てるよう心がけている。	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11			・モニタリングを丁寧に行い、クラス担当が細かくお子様の姿を話し合っている。 ・クラス担当者をはじめ職員から意見を集め、お子様の状況を把握し、検討させていただいている。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	11			・ファイルに挟んで共有できるようにしている。 ・個々に合った計画を共有し、個人情報鍵のかかる保管庫で保管している。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	2	2	・基準となるものがある。	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	11			・ガイドラインに沿って計画書を作るようにしている。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	11			・週案の検討にたくさん時間を設け活動内容を考えている。 ・クラス担当者だけでなく他の職員も一緒に実際の活動内容を再現して提供内容を考えるようにしている。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	11			・クラス担当をつけたことで、年間通した支援、活動が以前より組んでいる。 ・繰り返し経験し積み重ねることを大切にしていますが、ステップアップのためのプログラムを心掛けている	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	11			・モニタリングを基にして行っている。保護者様にも聞き取りをしている。 ・集団で生活しやすくなるために、小集団と個別での活動を合わせて提供している。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	11				
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	11				
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11				
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11				
24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10	1		・お子様の状況が分かる職員が参画できるように配慮している。 ・クラス担当者や個別の担当者、児童発達支援管理責任者が中心に参加している。 『市内障害児通所支援事業所 担当者連絡会』や『子ども・子育て会議』に積極的に参加している。		

	チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点
関係機関や保護者との連携	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	2		・特にモニタリング時期に園や保育園に連絡を取るようし、連携を図っている。 ・必要に応じて行政、保育、教育等関係機関と連携している。	
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11			・引継ぎ書などの活用をしながら行っている。 ・クラスで過ごせるための話をすることがある。 ・引継ぎだけでなく、必要に応じて日頃の様子を共有している。	
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11			・依頼があれば行くようにしている。	
	28 (28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	11				
	29 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	10	1		・他市の児童発達支援センターへの視察研修を実施している(年2回)。 ・感覚遊びなど外部講師を招き定期的に助言や指導をいただいている。	・外部の声のご意見をもらうことや研修に業務として参加する機会は多くはないように感じる。
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	7	3	1	・担当者が自立支援協議会や、鈴鹿市の子ども・子育て会議等に参加している。	
	31 (31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。					
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	6	3		・交流はありませんが、地域との交流やつながりは重要だと感じている。 ・個人で交流していただく機会はあるが、センターとして交流する機会があっても良いと感じている。
	33 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10	1		・療育や個別の活動を通して成長されたことなどを保護者様とお話させていただいている。	・話す機会が足りてないと感じている保護者もみえるのではないかと感じる。
	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10	1		・心理士を中心として行っている。	・今年度は第1で実施。第2では実施できなかった。
	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10	1		・いつでもご覧いただける場所にファイルが置いてある。 ・保護者様をはじめどなたでも、手に取ってご覧いただけるようになっている。	・事務員にゆだねている所があり、適切な説明が出来ていない。
	36 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	11			保護者様から聞き取りをしてお子さまの最善の利益を考え計画をさくせいしています。	
37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	11					
38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	11					

		チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	6	1		・保護者様同士で交流する場が必要と感じている。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11			・発達などの相談に関する配信をしている。保護者様から申入れがあった時にも随時対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	11			・SNSでセンターでの活動や行事を発信している。 ・きずなネットにて活動内容や目的を定期的に配信している。その他の連絡についても配信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	11				
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		1		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	5	3	・託児ボランティアは、地域住民の方にご協力いただいている。	・招待するような大きい行事を現在開催していない。 ・まだ、開かれていない。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		2		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	11			・BCPが策定されている。またBCPをテーマとした職員研修も実施している。 ・避難訓練や引き渡し訓練を実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	11				
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	2	1	・保護者様から聞き取りをしたうえで対応している。 ・保護者様から情報を詳しく聞き取り、対応している。また、医師によるエピペンの使用についての研修を受けたことがある。 ・今年度より個別の緊急情報カードを作成し、カード内にアレルギー等が記載されている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10		1	・安全計画を作成している。散歩など屋外活動の前には下見に行き危険な場所の有無を確認し、安全を確保している。 ・遊具の点検やAEDの点検なども定期的に行っている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10		1	・きずなネットにて安全に登園していただくための注意喚起をしている。また、お子さんたちには駐車場等での危険を伝え注意を促している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11				
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11			・研修を受ける機会の確保がなされている。また虐待防止委員会主催の研修会が年1回開催されており、当日参加できなかった職員も後日、動画視聴している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9		2	・身体拘束が必要な方のご利用はありません。	